

OIS

大阪府インテリア設計士協会

〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14
TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553

URL <http://jp-interior.or.jp/ois>
blog <http://oisblog.exblog.jp>
E-mail ois@jp-interior.or.jp

編集スタッフ

広報部長：田原
広報部：石渡・広畑・河原
仲田・朝日・園田
高尾・加茂
事務局：奥田・岡崎

証書伝達式
&
検定報告

No.84

叶知利書



宮後会長

証書を受け取る鷺岳さん

伝達式に思うこと

9月25日、記念すべき第50回インテリア設計士資格検定試験に合格し、登録を終えて、晴れて「インテリア設計士」の資格取得者となった人々に対する証書伝達式が行われ、いち理事として参加した。場所は昨年と同じ大阪南港・ATC内の大阪デザイン振興プラザ“交流サロン”である。

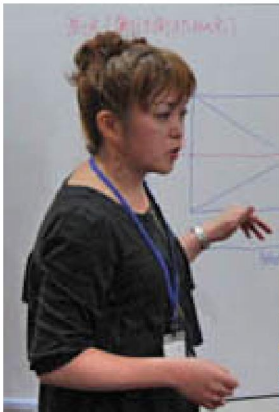
暑かった夏から急に涼しくなったことも手伝い、全員スーツ姿での参加である。まず最初に、宮後会長から証書の授与が行われ、合格の喜びを再実感するような緊張感が漂っていた。

次に、DVDによるOISの紹介が行われ、この日のためにリメイクされた新しいDVD映像に、私も改めてOISの魅力に惹かれる思いがした。引き続き、広畑理事による「ミニ・パース講座」が実施された。丁寧な説明に熱心に耳を傾け、指導に従って手を動かしパースを描く姿も、教える広畑理事も真剣そのものであった。

講座終了後は簡素なオードブルと飲み物を囲んでの交流会となり、新人と役員の間には交わされる和やかな会話は、普段とは違う趣で、役に立ったことと思われる。

試験の日の苦しみ、今日の嬉しさ、感動を忘れず、今後もドシドシこのような催しに参加し、自分磨きの場にさせていただくことを希望する。

新・インテリア設計士の皆さん、本当におめでとうございます。
(記・朝日勝彦)



講師の広畑理事



熱心にパースを描く合格者

第50回

インテリア設計士資格検定報告

第50回インテリア設計士資格検定試験は2010年7月10日(土)・11日(日)に行われ、全国で1・2級合わせて1,009人が受験し717人が合格した。そのうち大阪は51人の受験で43人の合格であった。

合格者リスト

五十音順

氏名	学校	氏名	学校
◆1級		田中 慕恩	OG
今井 俊夫	SH	玉井 愛	OG
◆2級		内藤 友貴	CU
新井 祐佳里	CU	中井 裕美	SD
石川 美緒	OS	仲谷 和晃	OG
市原 美希	HK	中塚 紗代	SD
今井 和子	SH	仲原 佑実	HA
馬場 早希	SI	西口 香里	OS
尾崎 文香	OS	朴 成和	TA
垣内 聖華	TA	濱岡 美沙	OS
亀岡 真利	OS	春野 久美子	HA
河合 悠香	OS	樋口 愛	SH
北 早苗	OS	ホウ アバイ	TA
桑原 由花	OS	松笠 あずさ	SI
小林 みく	OS	松本 恵理子	OS
佐々木 綾	TA	宮崎 亜衣子	OS
佐毘 晶子	SD	村木 あゆみ	CU
島田 亜利沙	CU	村田 絢美	OS
正蔵寺 早苗	OG	柳生 晴香	OS
末松 愛加	OG	楊 岱	TA
住 吉 圭	OS	鷺岳 夏希	CU
竹山 雅子	HA	渡部 嵩洋	TA
田中 和成	HA	渡邊 裕佑	HA

<凡 例>

SH=社会人
HA=羽衣国際大学
OS=大阪樟蔭女子大学
TA=宝塚大学・大学院
OG=大阪芸術大学短期大学部
SI=四天王寺大学短期大学部
HK=県立兵庫工業高等学校
CU=中央工学校OSAKA
SD=スペースデザインカレッジ

人の夢に俺ができること

園田 寛明



人には夢がある。
 人それぞれだろうと思う。
 有名人になりたい。
 医者になりたい。
 野球選手になりたい。
 たくさんの夢がある。

年齢を重ねれば夢はかわっていく。
 現実を知り、それでも喪わない夢は大事。
 またそれは目標へとかわっていく。

そういう自分も今なお増えている。
 わがままだろうけど、夢をもとめている。
 ピーターパンじゃないけど、そんな夢をカタチにしたい。

そんなある人の夢のお話。
 ある人の夢はカフェ(CAFE)をもつことです。
 1人じゃなく複数の人数で。
 カフェだけど、夜にはステージがあって演劇や歌を披露する場所。
 壁にはアートギャラリーもでき、もちろん食べ物もメインでやりたい。
 多くの人が集まり仲間がおれる場所。
 そういうのをテーマにカフェをしたいって。

その夢に自分ができることはカタチにしてあげること。
 自分がカフェを運営するわけでもないし、料理を作るわけでもない。
 ラフに図面をかってもらった。
 「ここにはこんなので〜テーマはこんなので」「素材はこんなので〜」とか。
 たくさんのお話を話した。
 この図面できたのも何回目のことだろうか。
 話し合っただけじゃなければ次のもの〜など。
 俺は建築の図面を引けるほど器用じゃないし、建築を知ってるわけじゃない。
 でも、その人が求めるものを作ってあげたい。
 実際に形にするときは建築士やインテリア設計士とかもいるのだろうけど。
 今は、その人が想像する夢を作ってあげたかった。



全部で3パターンある。
 そのパターンを相手が希望したからである。

俺にできることを考えた時、これぐらいしかできないと思った。
 まずは伝えたい、絵として。

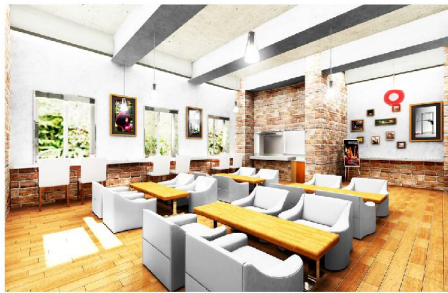
夢にはすごい道のりがあると思う。
 叶えるまでには、たくさんのお話をしなければならぬのかもしれない。
 辛いことも、悲しいことも、でも人は、その先にある「夢」のために頑張ってるのだと思う。自分もモチロン頑張っている。
 だからこそ、頑張ってもらいたい願う。そんな人たちに応援したいから。

この絵を見てもらって、その人が少しでもやる気になって、自分の夢忘れずに頑張ってくれたら〜って思う。
 応援してるで〜っていうことを伝えたい。

途中で夢がかわって、今は〜っていうのもいいと思う。
 でも、「今・リアル」な時こそ、俺は応援したい。

だから今自分にできることはこれを作ること、伝えること。

そんな夢のお話。
 他人だから〜とかじゃなく、自分にできることをしてあげたい、ただそれだけです。



技術レベルが低いとか、すぐにコピーをされるとか、確かに見受けられる節もありますが、コピー文化といえ、過去の日本もそうであり、僕の子供のころにも、「パーカー万年筆」のコピーを屋台で買った覚えがあります。それが、高度成長に伴い品質も向上、「メイドインジャパン」のブランドが出来てきたのではないのでしょうか。すでに日本のあらゆる技術をマスターしているようにも思えました。あの活力、行動力、いずれ日本企業が中国の傘下に、とも思えるほどです。



今回、上海に行っているのは、5年後、日本はすでに中国の標的ではなく、無視をされる国になっているようにさえ思えます。そうならないだけの活力と英知をもっと身につけないといけないのではないのでしょうか。



記事募集のお知らせ

あなたが最近行かれた「観光地」の情報を教えてください。
 お寄せいただきたい内容は、次のとおりです。
 ●文字数=500字程度 ●写真2~3枚 ●国内・外を問いません。
 ●原稿は郵送・メール・FAXで事務局までお送りください。
 (FAXの場合、写真は郵送してください)
 ◆掲載させていただきました方には記念品を贈呈いたします。

淡路島で有名なものは？…と質問されて「イザナギ・イザナミの国生み神話、うずしお、玉ねぎ、温泉…それに、瓦！」と。「瓦」を思いついたひとは「ナカナカやるな」です。

三州(愛知)、石州(島根)と並び、淡路島は瓦の三大産地で、特にいぶし瓦にいたっては、国内シェアの約50%を占めているということを知っている人は少ないようです。かくいう私も最近知ったのですが…。400年の歴史があり、瓦の形状は数千種類もあるそうです。

一般的にいう陶器瓦は仕上に釉薬や塗料を使いますが、いぶし瓦は燻化させるのが特徴で、約1,000℃で焼成した後、密閉状態のまま生ガスを使い炭素膜を吸着させるのですが、この時の火加減と圧力は職人の経験とカンが必要なのだそうです。

焼きあがった時は真っ黒で素人は驚きます。エアーと刷毛で丁寧にススを払うと滑らかな銀色の光沢が現れ、うっとりします。素手で触ると手垢がついてしまうので神経もつかいますが、そういった繊細なところも「自然から頂いた貴重な恵」として愛情を感じますし、鬼瓦(棟端の飾瓦)の造型は年月に洗練され鬼



瓦

瓦って…

高尾 千寿



淡路島の欄干

面などを手作業でつくる職人は「鬼師」と呼ばれていて、とてもカッコイイです。メーカーに大量生産型が多い三州に対して、淡路瓦はどちらかというと家内工業的で、「手技」に近い、というのが私の感想です。実情としては、戦後の大量需要の際に品質の劣化が見られ評判を落としてしまったり、阪神大震災の時には間違った情報で市場に大打撃を受けたりと不幸な時代があったようですが、それらをくぐり抜け、今は「頑張る産地」だなぁ、と感じています。

窯入れの時間や圧力を研究して強度や窯変を開発している企業もありますし、伝統的な屋根や敷瓦・漆喰や土壁と組み合わせた壁材に留まらず、工夫をこらしたモダンな新商品、環境配慮のエコ商品の開発には、瓦産業界自体が一所懸命取り組んでいるので、より以上に、そう感じるのかもしれない。

建築材料として新たな取り組み以外にも、インテリアやエクステリア商品、景観づくり、アートにも、瓦の使われ方も多様化され、個性的な空間を作るための優秀なマテリアルとして見直されています。

いぶし瓦…もっとこんな風にしたら…と創造力をかきたたえられる素敵な素材だと思います。



織ミハラの工場内部

織タツミから

最近のタワーマンションに思う

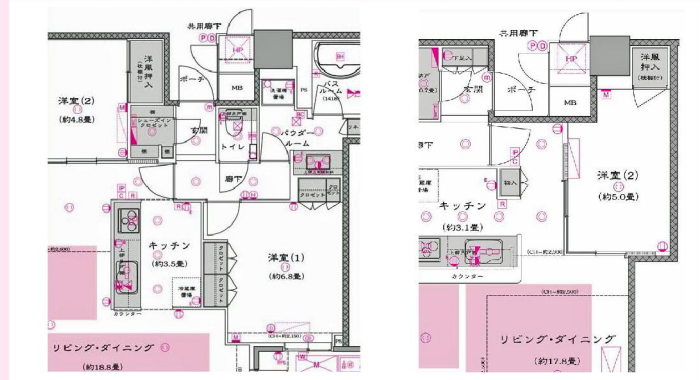
田原 妙子

ここ数年、あちこちで超高層マンションが増え、そこそこの広い土地があれば、40~50階くらいのタワーマンションが建ち、天空の邸宅となります。眺望とホテルライクな空間を求める人や、賃貸やセカンドとしての購入する人も多いのですが、最近ファミリー・タイプも増えて垂直型団地の感もあります。

仕事でタワーマンションに関わることも多く、以前から気になっていたことが、最近は頻繁に起こるようになりました。それは、高額のわりに普通タイプより、家具の搬入が難しい、つまりサイズの大きな高級家具が入りにくいということです。

輸入ブランドやデザイナー物のソファやボード類はサイズの大きなものが多く、戸建住宅なら庭からの搬入はできても、マンションの場合は必ず玄関から廊下を通してLDや洋室へ運ぶので、玄関は入れても、廊下で廻せなくて諦めることがしばしば…。造作家具でも長尺板は無理だったり、あらかじめ箱を作って現場組立てする方法ができないこともありました。なのでいつのまにか壁面収納は、無難なシステム家具を使うことが多くなってきました。

親子ドアの最上階クラスは別として、上層のハイ・グレード・



フロアであっても、ゆったりした高級家具が入られない。単身者サイズの小ぶりな室であっても同じことが起こります。

なぜそんなことが起こるのか？それは太い構造柱があちこちにあり、内廊下で窓がないのにできるだけ居室空間をとりたが為に、玄関・廊下が狭く曲がりくねってしまうからです。

一昔前は、動線、視線、家具の搬入も考慮して設計されていたのが、プランもそれほど悩みませんでした。が、最近は建物乱立とともに、収益につながる居室広さ優先で、普通のマンションよりも住まい勝手の悪いものが増えていきます。加えて図面に表われていなかった取り合いもできたりして、建物完成前の提案はますます難しくなってきました。美しい家具で作る空間を夢見ていた購入者にとっては妥協と諦めも、余裕のある人は設計変更やリフォームで費用を掛けますが、そこまで具体的でない人はいざインテリア・プランに入ってから悩むことになります。お陰で入れたかった高級家具を諦めて、それなりの物で対応するしかない。これは家具業界にしても面白くない傾向だと思います。

この時勢で、ゼネコンの設計者も割り切って効率のよい売れる設計をしなければいけないのでしょうか、もう少しだけ心の知恵を絞っていただけたら美しい空間へとつながり、より多く施主の満足を得る結果につながるはずと、つくづく感じることの多いこの頃でした。

今後の予定・・・詳細は順次お知らせします。積極的にご参加ください。

- 2010. 11. 13(土) 「もりぐち歴史館(旧中西家住宅)」見学会
- 2010. 11. 25(木)~27(土) 「事遊展」 於・コラムデザインセンター
- 2010. 11. 27(土) 「手作りサロン~篆刻を楽しむ」 於・同上
- 2010. 12. 10(金) 「第7回 Designer's Bar」+「忘年会」 於・同上

ご希望・お問い合わせはメールでお気軽に⇒

